



橋本知事から指定書の交付を受ける戸田委員長(左)

茨城県郷土工芸品とは、本県の風土や生活の中受け継がれてきた工芸品として、幅広くPRを図るものです。

全国的に発信しています。殿下が模型作りの様子を視察されるなど、帆引き船をはじめ霞ヶ浦観光を

■帆引き船の歴史
明治13年、市内坂の折本良平が考案し、初めて帆をつけた船がシラウオ漁のため霞ヶ浦に浮かびました。その後、改良が加

2008年では、皇太子殿下が模型作りの様子を視察されるなど、帆引き船をはじめ霞ヶ浦観光を全国的に発信しています。

戸田廣委員長は、「地域や職業、年齢に関係なく、帆引き船に想いを寄せたメンバーで、霞ヶ浦の文化遺産である帆引き船の模型を完成させた。今回の指定は、後世に伝える一助になった」と語られました。

■実行委員会のあゆみ
霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員会は、「まちづくり100人委員会」の有志が中心となり平成13年5月に発足。帆引き船を利活用した地域おこしを目的に、これまでの観光帆引き船の操業を生かしたフォトコンテストを始めました。その後自然公園大会への取り組みを契機に模型作り教室を精力的に行いました。「国民文化祭・いばらき

県指定で実行委員会の思い結実
模型は、湖上を勇壮に走る帆引き船の姿を实物同様杉の赤味を使い、40分の1の大きさに手作りです。忠実に再現し、また、将来にわたり製造の継続が見込まれるとの判断から指定になりました。県指定は3年ぶり48番目。指定に当たり、実行委員会の

えられ、ワカサギ漁の主役として昭和40年代トロール魚船に変わるまで沿岸数千人の漁業関係者の生活を支え続けてきました。昭和46年に観光用として復活し、現在は、行方市、土浦市とともに、協力して事業などを行なっています。



帆引き船の魅力を後世に 茨城県郷土工芸品指定 霞ヶ浦帆引き船模型



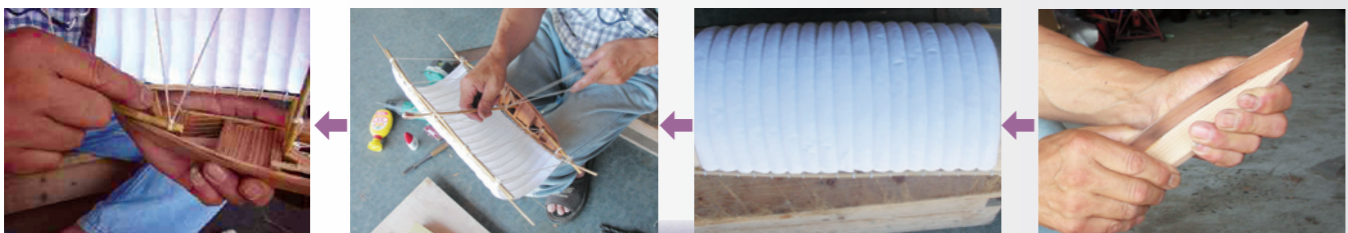
「霞ヶ浦帆引き船模型」
スケール 40分の1
ケース付1万円販売
※写真は30分の1

詳しくは事務局 観光商工課
☎ 029-897-1111
☎ 0299-59-2111 内線 2526

霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員会が制作する模型が8月5日指定に

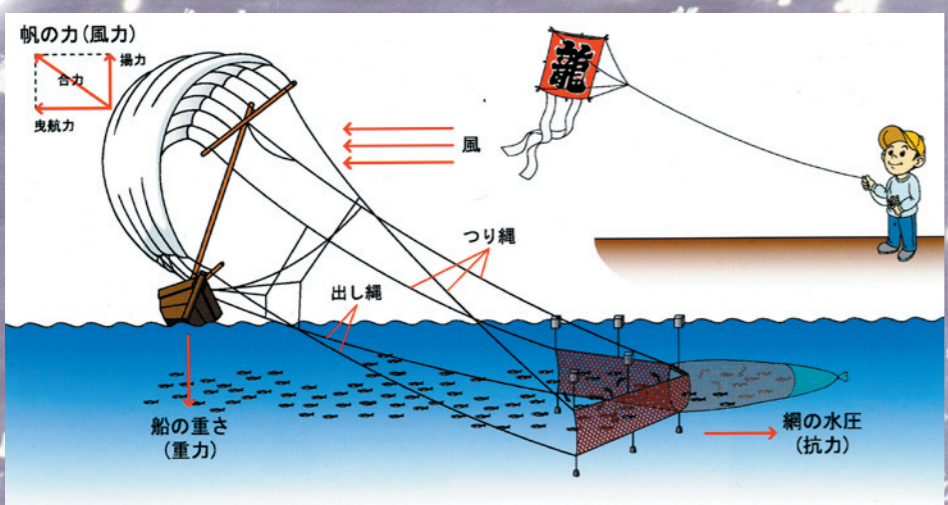
霞ヶ浦の原風景・文化遺産を伝道する匠

丹念に仕上げられる匠の技



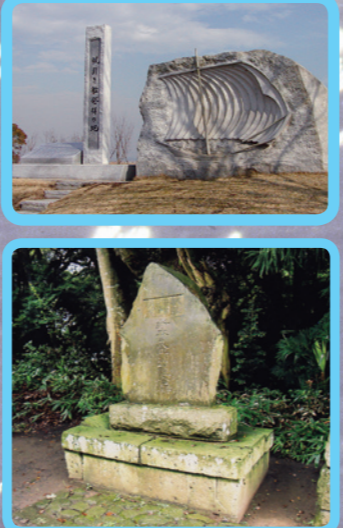
- 部品の取り付けと装丁
船首と船尾に出し棒を取り付け模型が完成。ガラスケースに装丁し販売用にも応えている。
- 帆柱に御殿場のスズタケ
節目の柔らかさと見えがよいスズタケを帆柱に使用。順風満帆に見えるため手前に5度傾ける。
- 研究を重ねた帆型
1枚の綿布を折り返し2重の厚みをだし、躍動感あふれる帆にするため手製の帆型で固める。
- 杉の赤味が主材料
実物に近づけるため赤味の正目を主材料に使用。廃船の材料から作られた模型は数が少なく大変貴重。

帆引き船のメカニズム



▲帆引き船は、風の原理を応用し船を横に流して漁を行うことで飛躍的な漁の進歩を促した。「霞ヶ浦の帆引き船物語」ホームページから
HP <http://www.city.kasumigaura.ibaraki.jp/hobiki/index.html>

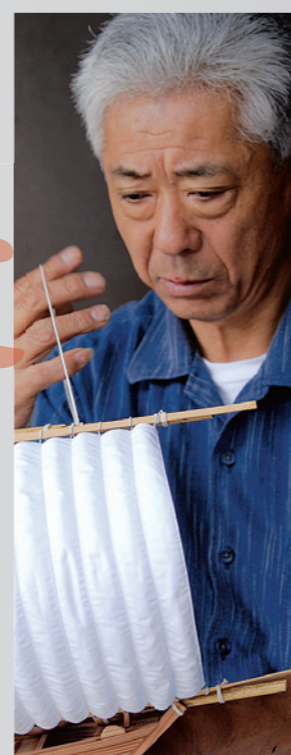
歩幅見て歩き



上：水族館前に建つ「帆引き船発祥の地記念碑」 下：歩崎観音境内に建つ「折本良平記念碑」

村本とし子さん(主婦)
MURAMOTO TOSHIKO

優しい曲線を作るカリスマ
力強さの中にも優しさのある真っ白な帆の制作を一手に引き受けるカリスマ主婦。



齋藤等さん(元市役所職員)
SAITO HITOSHI

飽くなき挑戦者
模型にさらなる精巧と美を追求し続ける。退職後、自らも漁師の道に生きる。

白井孝雄さん(建築業)
SHIRAI TAKAO

巧に木を操る技師
何度も帆引き船に乗り体感した形を指先に託す。船体は実物同様杉の赤味にこだわる。



設楽健夫さん(会社員)
SHITARA TATEO

帆引き船模型生みの親
霞ヶ浦帆引き船模型の発案者であり、模型事業のトータルコーディネーター。